



令和4年度

事業概要

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

目 次

	ページ
I 令和4年度 文化観光局運営方針について	1
○基本目標	
○目標達成に向けた施策	
○目標達成に向けた組織運営	
II 令和4年度 文化観光局予算について	2
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
◆コロナ禍からの回復に向けた主な取組◆	3
III 令和4年度 文化観光局 主要事業	4
1 市民の文化芸術活動の支援と環境整備	4
(1) 芸術文化支援事業	
(2) 文化施設運営事業	
(3) 文化施設整備事業	
(4) 横浜美術館大規模改修事業	
(5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業	
2 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現	6
(1) 創造的イルミネーション事業	
(2) 横浜芸術アクション事業	
(3) アーツコミッション事業	
(4) 創造界限形成事業	
3 横浜の魅力を生かした観光資源開発と国内外からの誘客促進	9
(1) 市内観光復興支援事業	
(2) 観光資源魅力アップ事業	
(3) 国内外からの誘客事業	
(4) 三溪園施設整備等支援事業	
(5) 観光M I C E戦略、推進体制検討事業	
4 グローバルM I C E都市としての競争力強化	11
(1) M I C E誘致・開催支援事業	
(2) 20街区M I C E施設整備運営事業	
◆トピックス 「次世代育成」・「社会包摂」の推進に向けた取組◆	13
IV 令和4年度 文化観光局予算総括表	15
V 予算科目別内訳	16
1 文化観光総務費	16
2 文化芸術創造都市推進費	17
3 文化プログラム推進費	21
4 観光M I C E振興費	22

I 令和4年度 文化観光局 運営方針について

基本目標

あうたびに、あたらしい *Find Your YOKOHAMA*

～「チーム文化観光局」による「選ばれる都市 横浜」の実現～

歴史あるものを大切に守りつつ、いつも新しい発見があり、感性が磨かれる感覚と、ワクワクする心の高揚が感じられる街、横浜。そんな横浜のブランドイメージを高めていくためのスローガンです。

目標達成に向けた施策

持続可能な文化観光施策の推進

令和4（2022）年度は、新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、コロナ禍からの回復を見据えた施策を推進し、横浜経済の力強い回復と賑わいの創出につなげます。

文化芸術創造都市施策では、最先端のデジタル技術を活用したダイナミックな光と音楽の演出により、都市の新たな夜景を街ぐるみで創り出す「創造的イルミネーション（ヨルノヨ）」や、市民参加・次世代育成・社会包摂・賑わいづくりを柱とした横浜らしい音楽フェスティバル「横浜音祭り2022」の開催など、都心臨海部における都市空間の優位性と文化芸術の創造性を生かした横浜らしい魅力を創出します。また、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や機能強化を進めるとともに、子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域で文化芸術に親しむ機会の拡充を図るなど、心豊かな市民生活の実現に向けて、文化芸術活動の基盤を充実させます。これらの施策を通じて、コロナ禍で影響を受けている文化芸術関係者の活動機会を創出します。

観光・MICE施策では、観光MICE戦略の策定と、市場の回復状況に応じた国内外からの誘客促進・MICE開催支援に取り組み、持続可能な観光都市の実現を目指します。コロナ禍からの回復に向けては、観光キャンペーンにより観光需要喚起を促し事業者支援につなげるほか、安全・安心にMICEが開催できるよう主催者を支援するとともに、参加者の来訪を促し、消費活動の喚起につながる取組を推進することにより、市内経済活性化を図ります。

目標達成に向けた組織運営

共感・協働を大切に

現場を知り、現場の声をしっかりと受け止めるとともに、市民、企業、NPOの皆様といった多様なステークホルダーとの対話を大切にして信頼を築きます。関係機関・関係区局との連携・協調を進め、状況の変化に柔軟に対応しながら、文化芸術・観光 MICE 施策を前進させます。

果たすべき役割を意識して行動する

財政の持続性を確保しながら市民の皆様や社会の要請に応えるため、エビデンスに基づき、前例にとられない広い視野と柔軟な発想力をもって業務に取り組みます。基本目標の達成に向け、職員一人ひとりが自分の役割を自覚し、ヨコハマを愛し、横浜の魅力を内外に発信します。

人材育成と職場づくり

職員一人ひとりが意欲・能力を発揮し、チーム力を高めるため、業務や職位の壁を越えて活発な議論ができる、風通しの良い職場づくりに取り組みます。全ての職員が超過勤務縮減・休暇取得促進に努め、多様な働き方を推進し、働きやすい職場づくりを進めます。

Ⅱ 令和4年度 文化観光局 予算について

予算額の概要

令和4年度の文化観光局の一般会計予算額は、225億4,929万円、対前年度41億6,113万円(22.6%)の増となっています。

主な増額理由は、横浜美術館大規模改修事業及び文化施設運営事業の増によるものです。

区分	4年度予算額	3年度予算額	増減
一般会計	225億4,929万円	183億8,816万円	41億6,113万円 (22.6%)

(内訳は15ページの文化観光局予算総括表を御覧ください。)

予算編成の考え方

「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて

局事業の基盤となる4つの柱を中心に、「次世代育成(クリエイティブ・チルドレン)」と「社会包摂(クリエイティブ・インクルージョン)」を分野を超えた局の共通理念として、客観的なデータに基づくPDCAと事業ごとの効果的なプロモーションを進めながら、SDGsを意識して施策を展開します。また、コロナ禍においても徹底した感染症対策のもと、持続可能な魅力づくりと賑わい創出を推進し、市民の皆様にとって誇れるまち、国内外から「選ばれる都市 横浜」の実現を目指します。

客観的なデータに基づく施策のPDCAと効果的なプロモーションの推進

①
市民の文化芸術活動
の支援と環境整備

②
横浜のプレゼンスを
向上させる文化芸術
創造都市の実現

③
横浜の魅力を生かした
観光資源開発と
国内外からの誘客促進

④
グローバルMICE都市
としての競争力強化

共通理念 「次世代育成 クリエイティブ・チルドレン」と「社会包摂 クリエイティブ・インクルージョン」の推進



徹底した新型コロナウイルス感染症対策のもと
文化芸術・観光MICEによる持続可能な魅力づくりと賑わいを創出



「選ばれる都市 横浜」の実現

◆コロナ禍からの回復に向けた主な取組◆

文化観光局では、これまで横浜が築き上げてきた文化芸術や観光・MICEの基盤を守るため、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術関係者や観光・MICE事業者の皆様へ支援を行ってまいりました。

4年度は、感染状況を見極めながら、コロナ禍で影響を受けている地域の文化芸術活動の活性化を目指すとともに、文化芸術イベントを含むアクティビティに利用可能なクーポンを付与する観光キャンペーンや、MICEの現地参加者を増やす取組への支援等を行います。

◇下記関連事業の該当部分を 臨時交付金 と表記しています。

事業名称	事業費
芸術文化支援事業（地域の文化芸術活性化支援事業） P. 4	3,000万円
市内観光復興支援事業 P. 9	3億円
MICE誘致・開催支援事業 （安全・安心な横浜MICE開催支援助成金） P. 11	4億5,000万円

Ⅲ 令和4年度 文化観光局 主要事業

1 市民の文化芸術活動の支援と環境整備

文化的に豊かな市民生活の実現に向け、市民の皆様やNPO等が主体となって行う文化芸術活動を支援し、鑑賞、創作、体験、発表ができる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化施設の運営を通じて、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な魅力を発信するとともに、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や本市の文化施策の拠点である横浜美術館、横浜みなとみらいホールの大規模改修を進めます。

(1) 芸術文化支援事業

一部新規

5,790万円（前年度：1億2,790万円） p.18

音楽、美術、舞台芸術などの分野で、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業を支援します。

地域の文化芸術活性化支援事業 3,000万円

臨時交付金

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域の文化芸術活動を活性化するため、地域の拠点である区民文化センター等が開催するリアルな文化芸術体験による次世代育成を支援します。

具体的には、区民文化センターの地域コーディネーター等が中心となって、アーティストによる子ども向け公演やワークショップに取り組み、そのノウハウや成果を施設間で共有することで、今後の地域の文化芸術活性化につなげます。

(2) 文化施設運営事業

一部新規

37億4,607万円（前年度：29億9,450万円） p.19

横浜能楽堂、関内ホール、横浜にぎわい座等、計15の文化施設において、コロナ禍においても、市民の皆様が安心して文化芸術に親しめるよう、施設運営を行います。併せて、質の高い公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。

また、市民の皆様が施設を安全に利用できるよう老朽化等に対応する修繕を実施するほか、キャッシュレス決済等の新たな機能を装備した市民利用施設予約システムの再構築に着手します。

区民文化センターでは、青葉区及び戸塚区で天井耐震化に向けた工事を行うほか、横浜能楽堂では大規模改修における実施設計に着手します。

撮影：尾形美砂子



【横浜能楽堂普及公演「横浜狂言堂」
狂言「濯ぎ川」(大藏流) 茂山茂】

(3) 文化施設整備事業

15億 292万円（前年度：17億1,075万円） p.19

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備し、文化芸術創造都市の裾野を広げます。

港北区では、昨年度に引き続き床取得費の一部を支払います。都筑区では、床取得に向け、不動産鑑定評価等を行います。また、金沢区では新たな整備に向けて附属機関の基本構想検討委員会を設置し、金沢区における区民文化センター基本構想を策定します。

- ・ 港北区：床取得費 14億9,492万円
- ・ 都筑区：不動産鑑定評価等 500万円
- ・ 金沢区：基本構想検討委員会経費 300万円

(4) 横浜美術館大規模改修事業

拡充

62億9,530万円（前年度：8億4,011万円） p.19

美術作品を展示、保存するうえで重要な空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

4年度は引き続き改修工事を行います。

総工事費：約120億円

工事期間：3年10月～5年度中

※休館中は「プロット48」（みなとみらい21中央地区48街区）等で市民向けワークショップ等を実施



【横浜美術館】

(5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業

32億6,639万円（前年度：38億4,755万円） p.19

利用者の安全を確保するため、大ホール、小ホール及び大ホールホワイエの天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

また、バリアフリー対応の改修を行います。

4年度は引き続き工事を行い、10月にリニューアルオープンします。

総工事費：約68億円

工事期間：3年1月～4年7月

※休館中は市内小中学校や公共施設でのアウトリーチ活動等を実施



【横浜みなとみらいホール】

2

横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現

都市の新たな夜景を街ぐるみで創り出す創造的イルミネーションや、横浜らしい特色ある芸術フェスティバルの開催、文化芸術を通じた国際交流の展開により、都市の魅力を高め、横浜のプレゼンスの向上と街の賑わいの創出につなげます。

また、歴史的建造物や公共空間等を創造活動の場として活用し、アーティスト・クリエイターの集積と企業・地域との協働の推進により、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

(1) 創造的イルミネーション事業

拡充

3億8,800万円（前年度：3億円） p.17

横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において先端技術を用いた光と音楽の演出（ヨルノヨ）により、横浜ならではの港の夜景を官民一体で創出します。よりダイナミックな演出とするため、光の演出ポイントを増やします。

また、コロナ禍からの社会経済活動の回復に寄与するため、感染症対策を講じながら、店舗や地域のイルミネーションと連携した街の回遊促進の取組も実施します。

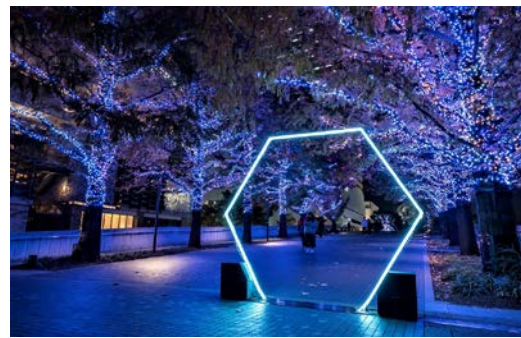
【ヨルノヨ 概要】

開催期間：4年11月下旬～5年1月初旬（予定）

会場：都心臨海部（ビューポイント 大さん橋 等）



【光のドーム(3年度)】



【観光スポット等に設置した光のオブジェ(3年度)】



【大さん橋から見た街全体の光の演出風景(3年度)】

(2) 横浜芸術アクション事業

3億2,796万円（前年度：4億7,280万円） p.21

市民参加・次世代育成・社会包摂・賑わいづくりを柱に「横浜音祭り2022」を万全の感染症対策を講じ開催します。

【横浜音祭り2022 概要】

開催期間：4年9月17日～11月6日（コア期間51日間）

（プレ期間：4年5月1日～9月16日、ポスト期間：11月7日～11月27日）

会場：横浜市内全域（横浜の「街」そのものが舞台）

ジャンル：クラシック、ジャズ、ポップス、日本伝統音楽等オールジャンル

ディレクター：新井鷗子氏

主催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

◇市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

【主な事業】

・街に広がる音プロジェクト

実施日：4年9月～11月

内容：フェスティバル期間中の週末を中心に、来街者で賑わう街中のオープンスペースで、市民参加によるストリートライブを実施します。



【横浜音祭り2019
「街に広がる音プロジェクト」】

◇トップアーティスト事業

【主な事業】

・オープニング企画

実施日：4年9月17日～18日

内容：横浜の音楽シーンを支えてきたライブハウス等の連携による横浜初「大規模周遊型イベント」を開催します。



【横浜音祭り2019
「オープニングコンサート」】

撮影：大野隆介

◇子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業

【主な事業】

・横浜市消防音楽隊による中学校吹奏楽部ワークショップ&演奏会

実施日：4年6月～10月

内容：消防音楽隊が市内中学校に出向いてワークショップを実施します。

(3) アーツコミッション事業

7,110 万円（前年度：7,337 万円） p.17

アーティスト・クリエイター、市民、企業、学校などの多様な創造の担い手が活動しやすい環境づくりを進め、文化芸術の持つ創造性を産業振興やまちづくりに生かすことで「文化芸術創造都市・横浜」としてのプレゼンスを高め、都心臨海部の活性化につなげます。

若手アーティストの育成・支援、横浜らしい魅力あるクリエイティブな活動を生み出すプラットフォームの運営、遊休不動産を創造的に活用する芸術不動産事業の公民連携による推進等を引き続き実施します。

さらに、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、横浜発の舞台芸術の発信や人材の集積・育成、街の賑わいづくり等を進めます。

撮影:OHNO RYUSUKE



【関内外 OPEN! 13】

撮影:bozzo



【YPAM2021 より
劇団態変『翠晶の城 - さ迷える愛・序』】

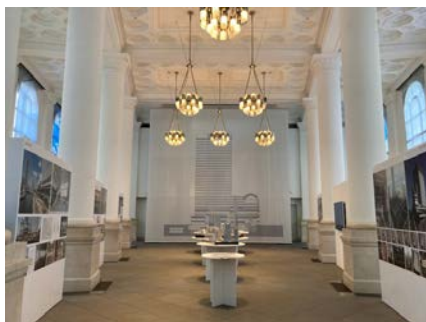
(4) 創造界限形成事業

2 億 9,917 万円（前年度：7 億 2,025 万円） p.17

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界限拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの集積や地域との連携を通して、街の賑わいづくりを進めます。

なお、旧第一銀行横浜支店は、天井改修工事の終了を踏まえ、新たな運営事業者を公募します。

ラギルドウィ・フトラ(底からのメッセージ)
Photo: Kohei Yamamoto / Courtesy of Koganecho Bazaar 2021



【旧第一銀行横浜支店「M meets M 楨文彦展」】



【初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）】

コロナ禍からの観光市場の回復と、持続可能な観光都市の実現に向け、旅行需要の喚起による市内文化・観光産業の復興策に加え、戦略的な誘客施策の展開を図ります。

まずは、観光地としての魅力向上、国内誘客施策に取り組み、将来的な海外からの誘客促進に向け、情報発信等を継続します。

さらに、横浜の観光・MICEを官民一体で推進していくため、概ね10年後に目指す観光・MICEの姿や方向性を示す「横浜市観光MICE戦略」を策定します。

(1) 市内観光復興支援事業

拡充

臨時交付金

3億円（前年度：5,000万円） p. 22

コロナ禍で影響を受けた観光事業者を支援するために、平日や閑散期を中心とした宿泊クーポンや、体験予約時に利用できるアクティビティクーポンを活用した観光キャンペーンにより、横浜への旅行需要を喚起します。

併せて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて厳しい状況にある文化芸術関係者を支援するため、新たに市内文化芸術関連イベントのチケット料金の一部をクーポン等により支援し、来場を促進します。



【宿泊クーポンの特設サイト】



【日帰り旅行の情報冊子】

(2) 観光資源魅力アップ事業

6,920万円（前年度：8,580万円） p. 22

観光地としての魅力向上に向けて、富裕層とリピーター獲得に向けたニーズ分析と分析結果に基づいた資源開発を行い、高付加価値の観光につながる市内観光資源の充実・開発に取り組みます。

さらに、社会的需要やトレンドに基づき、SDGsやビジネス旅行等を切り口としたコンテンツを新たに造成し、観光地としてのブランディングにつなげます。

また、コンサート等のイベントと連携した市内周遊企画による滞在時間の延長、市内宿泊促進策を引き続き実施します。

(3) 国内外からの誘客事業

6,206万円（前年度：9,468万円） p.22

◇国内誘客

教育旅行の誘致に向けたセールス等を実施し、市内宿泊や回遊の促進を図ります。

また、大河ドラマ等を契機とした誘客プロモーションを実施し、市内郊外部等の魅力を発信することで、市内回遊を促進します。

◇海外誘客

観光レップ(※1)による現地での旅行トレンドの情報収集や、現地商談会への参加などのセールス等により旅行会社等とのネットワーキングに取り組むことで、市場の変化に迅速に対応し、観光地としての横浜のさらなる認知向上を図り、将来的な市内への誘客につなげます。

また、訪日観光市場の回復状況に応じて、情報発信、OTA(※2)でのプロモーション等を実施します。

(※1)観光レップ(rep)：英語のRepresentativeの略。代理店の意味合い。自治体や事業者の代理を旅行会社や広告代理店等に委託し、現地の海外旅行市場の調査分析や観光情報の発信等を行う。

(※2)OTA（オンライントラベルエージェント）：ホテル、航空券、国内外旅行の予約など、インターネット上だけで取引を行う旅行会社。

(4) 三溪園施設整備等支援事業

1億8,241万円（前年度：2億1,007万円） p.23

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。

4年度は、旧東慶寺仏殿の工事に対し支援します。

また、施設を所有管理する（公財）三溪園保勝会の経営機能強化を図るため、経営アドバイザリー業務委託を引き続き行うとともに、観光施設としての機能強化に向けた用途制限の緩和の検討を進めるための調査委託を行います。



【旧東慶寺仏殿（重要文化財）】

(5) 観光MICE戦略、推進体制検討事業（観光振興事業の一部）

一部新規

2,250万円（前年度：1,500万円） p.23

横浜市が今後も継続的に発展していくためには、経済成長の柱としての観光MICEを多様な関係者と官民一体で推進していく必要があります。

そのため、概ね10年後に目指す観光・MICEの姿を見据えた「横浜市観光MICE戦略」を策定するとともに、観光地域づくり法人（DMO）を中心とした観光推進体制の構築に向けた検討を進めます。

4

グローバルMICE都市としての競争力強化

依然として新型コロナウイルスの影響が続く中、安全・安心にMICEが開催できるよう主催者を支援するとともに、参加者の来訪を促し、消費活動の喚起につながる取組を推進することにより、市内経済活性化を図ります。

併せて、コロナ禍からの回復を見据えて、経済波及効果の高い中大型の国際会議やビジネスイベントの誘致を進め、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

一部新規

(1) MICE誘致・開催支援事業

8億1,089万円（前年度：5億5,932万円） p.23

安全・安心な横浜MICE開催支援助成金

4億5,000万円

臨時交付金

会場開催に加え、ハイブリッド形式（※）に対応したMICE主催者を対象に、オンライン経費、感染症対策費や会場費等を支援することで、安全・安心なMICE開催を促進します。

特に、アフターコンベンションの充実など現地参加者を増やす取組を支援することで、市内経済活性化につなげます。



【「FIAT-IFTA 創立 50 周年記念日本大会」
3年6月・ハイブリッド開催 於：横浜ロイヤルパークホテル】

（※）会場開催とオンライン開催の両方を行う形式

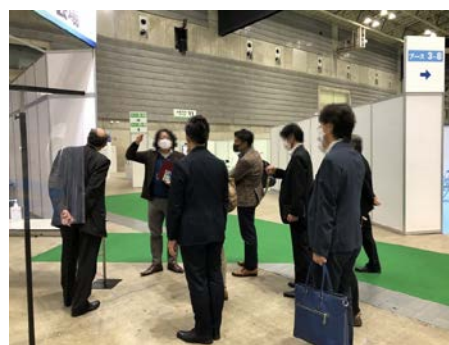
◇MICE開催支援・受入環境整備

横浜ならではの市内回遊ツアーや体験型コンテンツの造成などにより、参加者の来訪を促し消費活動を喚起します。

また、セミナー開催等による市内MICE関連産業の育成や商談会など、市内事業者のビジネス機会の創出につながる施策を実施します。



【「MICEビジネス実践型講座」
市内事業者向けセミナーの様子】



【「MICEビジネス実践型講座」
開催中の学会の見学の様子】

◇MICE誘致

コロナ禍からの回復を見据え、WEB広告や専門誌出稿など情報発信を強化し、主催者から参加者までターゲットに応じたデジタルプロモーションを展開します。

また、主催者とのネットワークを強化するとともに、助成金等を活用して国際会議の誘致活動を推進します。

◇MICE次世代育成事業

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップ等を開催します。

研究者との交流や、最先端の技術や情報に接することで、次世代を担う児童・生徒が将来の進路について考える機会を提供します。



【第32回日本内視鏡外科学会総会
「ジュニア外科体験セミナーin Yokohama
ミライ☆ドクターを目指せ！」】

◇MICE・観光集客等イベント支援

横浜の歴史と魅力を生かした大規模集客イベント等に対し、感染症対策を含め、開催に向けた支援を行います。

(2) 20 街区MICE施設整備運営事業

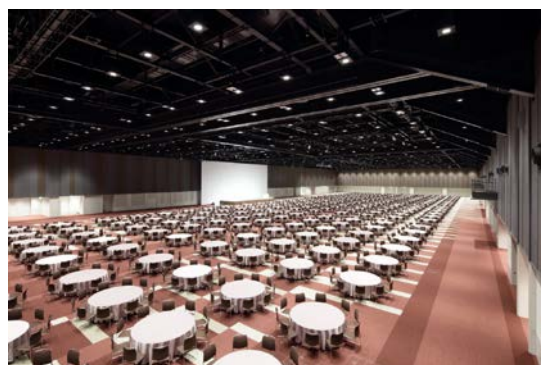
32 億 9,790 万円 (前年度 : 32 億 9,810 万円) p. 23

2年に開業した「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。

アフターコロナを見据えた新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、地域経済の発展・賑わい創出へ貢献します。



【パシフィコ横浜ノース 外観】



【パシフィコ横浜ノース 多目的ホール】

◆トピックス 「次世代育成」・「社会包摂」の推進に向けた取組◆

文化観光局では、文化振興、創造都市、観光・MICEの各分野において、「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」と、誰もが対等な関係に関わりあえる社会を目指す「社会包摂（クリエイティブ・インクルージョン）」の取組を共通理念として推進しています。

「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」

子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域での文化芸術に親しむ機会の充実や、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家を育成します。

また、国際会議の開催に合わせた研究者との交流など、次世代を担う子どもたちを育成する取組を推進します。

◆芸術文化教育プログラム推進事業 p. 18

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担当することで効果的にプログラムを提供します。

◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p. 18

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所でクラシック音楽を楽しんでいただくことを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」を核に、様々なコンサートを開催します。

コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。



【「第75回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」(毎日新聞社提供)】

◆ミュージック・マスタース・コース・ジャパン推進事業 p. 18

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、創設者の大友直人氏、アラン・ギルバート氏ら、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、市内で集中セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。

◆横浜音祭り2022における取組(横浜芸術アクション事業の一部) p. 21

子どもたちの豊かな感性と創造性を育むことを目的として、吹奏楽をはじめ様々なジャンルのアーティストによる出張授業やワークショップ等、未就学児から小・中・高校生ままでを対象としたプログラムを実施します。

◆MICE次世代育成事業（MICE誘致・開催支援事業の一部） p. 23

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどを開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、将来の進路を考えるきっかけを提供します。

◆映像文化都市次世代育成事業（映像文化都市づくり推進事業の一部） p. 17

横浜市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

「社会包摂（クリエイティブ・インクルージョン）」

横浜市の文化芸術の創造性を生かしたまちづくりを踏まえ、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを超えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方をもって事業を実施します。

◆横浜音祭り2022における取組

（横浜芸術アクション事業の一部） p. 21

国籍・人種・世代・性別・障害等を越えて、誰もが参加できるフェスティバルを目指し、1本指でメロディを弾くと伴奏とペダルが自動で追従し、誰もがピアニストのような演奏ができる「だれでもピアノ®」を活用したプログラムや、障害や病気で外出することが困難な方が分身ロボット「OriHime」を通じてコンサート会場でのチケット確認等を行い、就労支援につなげます。

撮影:平館平



【横浜音祭り2019「だれでもピアノ®」】

◆バリアフリー能（文化施設運営事業の一部） p. 19

横浜能楽堂では、障害の有無にかかわらず誰もが一緒に能や狂言を楽しめるよう、様々なサポートを用意した「バリアフリー能」を引き続き実施します。

◆ユニバーサルツーリズムの推進（受入環境整備事業の一部） p. 22

観光施設・宿泊施設のバリアフリー対応状況等の情報発信や市内観光関連事業者向けセミナーを継続し、障害の有無や年齢等に関わらず全ての方々が横浜観光を楽しめるよう、「心のバリアフリー」の浸透を図り、ユニバーサルツーリズムを推進します。

IV 令和4年度 文化観光局予算総括表

(単位：千円)

科 目	4年度 予算額	3年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款文化観光費	22,549,290	18,388,155	4,161,135	22.6	
1項文化観光費	22,549,290	18,388,155	4,161,135	22.6	
1目文化観光総務費	1,243,873	1,235,971	7,902	0.6	<ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費 8,902千円増 ・開港記念式典開催事業 1,000千円増 ・パーソナルモビリティツアー実証実験事業 △ 2,000千円
2目文化芸術創造都市推進費	15,771,413	10,810,187	4,961,226	45.9	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館大規模改修事業 5,455,193千円増 ・文化施設運営事業 751,578千円増 ・横浜みなとみらいホール大規模改修事業 △ 581,160千円 ・創造界限形成事業 △ 421,085千円 ・文化施設整備事業 △ 207,830千円
3目文化プログラム推進費	463,132	548,360	△ 85,228	△ 15.5	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレ事業 60,000千円増 ・横浜芸術アクション事業 △ 144,844千円
4目観光MICE振興費	5,070,872	5,793,637	△ 722,765	△ 12.5	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE誘致・開催支援事業 251,564千円増 ・市内観光復興支援事業 250,000千円増 ・観光施設維持管理事業 △ 1,143,940千円

V 予算科目別内訳

1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
1 文化観光 総務費	千円 1,243,873	千円 1,235,971	千円 7,902	千円 —	千円 —	千円 30	千円 1,243,843

横浜魅力づくり室

(1) 調査分析事業 10,264千円 (前年度 10,264千円)

施策を効果的に実施し、市内の賑わい形成、経済の活性化、文化芸術によるまちづくりにつなげていくため、現状分析及び企画立案の基礎資料を収集します。

具体的には、市内の文化観光施設に関する認知度・訪問意欲等の把握や、他都市との比較による都市の魅力、横浜で得られる体験価値に関する調査を実施します。

(2) 開港記念式典開催事業 5,680千円 (前年度 4,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民の皆様や市政関係者とともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

総務部

(3) 総務費 12,895千円 (前年度 12,895千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

(4) 職員人件費 1,215,034千円 (前年度 1,206,132千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

【終了事業】

(パーソナルモビリティツアー実証実験事業) (前年度 2,000千円)

1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 15,771,413	千円 10,810,187	千円 4,961,226	千円 335,547	千円 8,774,000	千円 71,913	千円 6,589,953

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界限形成事業 299,167千円 (前年度 720,252千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界限拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局）の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの集積や地域との連携を通して、街の賑わいづくりを進めます。

(2) アーツコミッション事業 71,100千円 (前年度 73,371千円)

アーティスト・クリエイター、市民、企業、学校などの多様な創造の担い手が活動しやすい環境づくりを進め、文化芸術の持つ創造性を産業振興やまちづくりに生かすことで「文化芸術創造都市・横浜」としてのプレゼンスを高めます。

また、若手アーティストの育成や共生社会の実現を目指す創造活動に対する支援、横浜らしい魅力あるクリエイティブな活動を生み出すプラットフォームの運営、遊休不動産を創造的に活用する芸術不動産事業の公民連携による推進等を引き続き実施します。

さらに、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、横浜発の舞台芸術の発信や人材の集積・育成、街の賑わいづくり等を進めます。

(3) 創造的イルミネーション事業 388,000千円 (前年度 300,000千円)

横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景を官民一体で創出します。よりダイナミックな演出とするため、光の演出ポイントを増やします。

また、コロナ禍からの社会経済活動の回復に寄与するため、感染症対策を講じながら、店舗や地域のイルミネーションと連携した街の回遊促進の取組も実施します。

(4) 映像文化都市づくり推進事業 18,519千円 (前年度 23,317千円)

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

(5) 創造都市市民連携事業 2,000千円 (前年度 4,000千円)

約300名の市民ボランティアスタッフが運営に参加するなど、多くの市民の皆様に親しまれているジャズフェスティバル「横濱JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援し、街の賑わいや来街者の回遊性を創出します。

- (6) 創造都市推進事業** **1,038千円** (前年度 1,221千円)
文化芸術創造都市施策推進のための事務経費等
- (7) 芸術文化教育プログラム推進事業** **34,940千円** (前年度 33,940千円)
次世代を担う子どもたちの感性や創造性を育むために、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能等の体験ができるプログラムを実施します。
また、国内トップレベルのミュージカルを鑑賞する機会を提供します。
- (8) 地域文化サポート事業** **33,000千円** (前年度 30,000千円)
地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティや街の活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を公募し、支援します。
また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。
- (9) クラシック・ヨコハマ推進事業** **9,000千円** (前年度 8,200千円)
国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。
また、コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。
- (10) ミュージック・マスターズ・コース・
ジャパン推進事業** **6,000千円** (前年度 20,000千円)
次世代を担う演奏家の育成を目的に選抜された若手演奏家に対して、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜市内で集中セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催し、市民の皆様も招待します。
- (11) 芸術文化支援事業** **57,900千円** (前年度 127,900千円)
音楽、美術、舞台芸術などの分野において、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業を支援します。
また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域の文化芸術活動を活性化するため、地域の拠点である区民文化センター等が開催するリアルな文化芸術体験による次世代育成を支援します。
- (12) フランス映画祭支援事業** **25,000千円** (前年度 30,000千円)
街の賑わいづくりと横浜市とフランスの友好関係を強固なものとするを目的に、「横浜フランス月間」と連携しながら、フランス映画祭の開催を支援します。
日本未公開のフランス映画最新作を上映するほか、次世代育成事業を実施します。

(13) 文化施設運営事業 **3,746,073千円** (前年度 2,994,495千円)

横浜能楽堂、関内ホール、横浜にぎわい座等の文化施設の運営及び各施設の設備等の修繕等を行うほか、市民利用施設予約システムの再構築に着手します。また、4年度は区民文化センターの天井耐震化に向けて、2か所で工事を行うほか、横浜能楽堂では大規模改修における実施設計に着手します。

○ 横浜美術館運営費	722,420千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	481,068千円
○ 横浜能楽堂運営費	176,485千円
○ 横浜にぎわい座運営費	213,940千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,003,828千円
○ 区民文化センター天井脱落対策費	807,393千円
○ 横浜能楽堂天井脱落対策費	81,321千円
○ 次期予約システム開発費	32,308千円
○ 文化施設修繕費等	227,310千円

(14) 横浜美術館大規模改修事業 **6,295,301千円** (前年度 840,108千円)

美術作品を展示、保存するうえで重要な空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。4年度は引き続き改修工事を行います。

(15) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業 **3,266,391千円** (前年度 3,847,551千円)

利用者の安全を確保するため、「横浜市公共建築物天井脱落対策事業計画」に基づき、大ホール、小ホール及びホワイエの天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

また、バリアフリー対応の改修を行います。4年度は引き続き工事を行い、10月にリニューアルオープンします。

(16) 文化施設整備事業 **1,502,923千円** (前年度 1,710,753千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備し、文化芸術創造都市の裾野を広げます。

港北区では、昨年度に引き続き床取得費の一部を支払います。都筑区では、床取得に向け、不動産鑑定評価等を行います。また、金沢区では、新たな整備に向けて附属機関の基本構想検討委員会を設置し、金沢区における区民文化センター基本構想を策定します。

○ 区民文化センター整備	
・ 港北区：床取得費	1,494,923千円
(新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備)	
・ 都筑区：不動産鑑定、設計施工アドバイザー	5,000千円
(都筑区における区民文化センター等整備予定地活用事業の中での整備)	
・ 金沢区：基本構想策定	3,000千円

(17) **その他の文化振興事業** **15,061千円** (前年度 25,079千円)
横浜文化賞の贈呈のほか、指定管理者選定評価委員会の開催等を行います。

【終了事業】

(ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業) (前年度 10,000千円)

(創造的ビジネス事業) (前年度 10,000千円)

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 463,132	千円 548,360	千円 △85,228	千円 100,000	千円 —	千円 10,000	千円 353,132

文化プログラム推進部

(1) 横浜芸術アクション事業

327,956千円 (前年度 472,800千円)

都市の文化プレゼンスを高めていくことを目的に、文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムを国内外に発信するため、芸術フェスティバル「横浜音祭り2022」を開催します。

また、継続事業として、次世代育成事業・市民参加事業を実施します。

ア 横浜音祭り2022

(ア) 市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

- ・街に広がる音プロジェクト

(市内各所で公募アーティストが出演するステージを展開)

(イ) トップアーティスト事業

- ・オープニング企画 / クロージングコンサート
- ・海外からオーケストラ等を招へい

(ウ) 子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業

- ・プロのアーティスト等によるワークショップ (小中高生を対象に実施)
- ・中学生プロデューサーがプログラム制作・広報等に参画
- ・「だれでもピアノ®」を活用したプログラム

イ ダンス部門

「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」で高まった機運を継続させるため、市民参加・次世代育成を主要な柱としたダンス事業を実施します。

また、次期ダンスフェスティバルの開催に向け、準備を進めます。

(2) 横浜トリエンナーレ事業

125,000千円 (前年度 65,000千円)

第8回展となる我が国を代表する現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2023」の開催に向けて、出展作家や作品、展示会場の調整等のほか、市民・地域の皆様との協働や横浜の持つ魅力を国内外へ発信するための準備を着実に進めます。

(3) 日中韓都市間文化交流事業

8,000千円 (前年度 8,000千円)

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づいて、引き続き、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。

(4) 文化プログラム推進事業

2,176千円 (前年度 2,560千円)

横浜ならではの文化プログラムを推進するための事務経費等

1項4目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
4 観光MICE振興費	千円 5,070,872	千円 5,793,637	千円 △722,765	千円 30,000	千円 —	千円 954,722	千円 4,086,150

観光MICE振興部

(1) 国内外からの誘客事業 62,055千円 (前年度 94,675千円)

国内誘客では、教育旅行の誘致に向けたセールス等を実施し、市内宿泊や回遊の促進を図ります。また、大河ドラマ等を契機とした誘客プロモーションを実施し、市内郊外部等の魅力を発信することで、市内回遊を促進します。

海外誘客では、観光レップによる現地での旅行トレンドの情報収集や、現地商談会への参加などのセールス等により旅行会社等とのネットワーキングに取り組むことで、市場の変化に迅速に対応し、観光地としての横浜のさらなる認知向上を図り、将来的な市内への誘客につなげます。

(2) 観光・MICE情報発信事業 81,404千円 (前年度 86,714千円)

公式観光ウェブサイト「横浜観光情報」やSNSを活用して、国内外に向けた情報発信をすることで、横浜への来訪意欲の喚起と滞在中の回遊性向上を図ります。

また、横浜観光コンベンション・ビューローのマーケティング機能を強化し、データを活用した戦略的な事業展開に取り組むとともに、観光MICE関連事業者とマーケティングデータを共有することで、官民一体となった観光・MICE施策につなげます。

(3) 観光資源魅力アップ事業 69,200千円 (前年度 85,801千円)

観光地としての魅力向上に向けて、富裕層とリピーター獲得に向けたニーズ分析と分析結果に基づいた資源開発を行い、高付加価値の観光につながる市内観光資源の充実・開発に取り組みます。

さらに、社会的需要やトレンドに基づき、SDGsやビジネス旅行等を切り口としたコンテンツを新たに造成し、観光地としてのブランディングにつなげます。

また、コンサート等のイベントと連携した市内周遊企画による滞在時間の延長、市内宿泊促進策を引き続き実施します。

(4) 市内観光復興支援事業 300,000千円 (前年度 50,000千円)

コロナ禍で影響を受けた観光事業者を支援するために、平日や閑散期を中心とした宿泊クーポンや、体験予約時に利用できるアクティビティクーポンを活用した観光キャンペーンにより、横浜への旅行需要を喚起します。

併せて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて文化芸術関連の公演・展示等への客足が伸び悩んでいる状況を改善するため、市内文化芸術関連イベントのチケット料金の一部をクーポン等により支援し、来場を促進します。

(5) 受入環境整備事業 47,182千円 (前年度 50,450千円)

市内3か所の観光案内所を運営するとともに民間観光案内所を支援し、受入環境の向上を図ります。また、市内宿泊施設等のバリアフリー情報の発信や市内事業者向けセミナーを実施し、ユニバーサルツーリズムを推進します。

(6) 三溪園施設整備等支援事業 **182,414千円** (前年度 210,065千円)

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。4年度は、旧東慶寺仏殿の工事に対し支援します。

また、施設を所有管理する(公財)三溪園保勝会の経営機能強化を図るため、経営アドバイザー業務委託を引き続き行うとともに、観光施設としての機能強化に向けた用途制限の緩和の検討を進めるための調査委託を行います。

(7) 観光施設維持管理事業 **108,681千円** (前年度 76,188千円)

本市の観光振興を図るため、所管施設(横浜人形の家、横浜マリントワー等)の維持管理・運営を行います。

(8) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 **1,503千円** (前年度 1,768千円)

ブランドプロモーション等、販売促進につながる事業に対する支援を行うことで、横浜観光の魅力向上、市内経済の活性化を図ります。

(9) 観光振興事業 **51,626千円** (前年度 49,408千円)

国内外からの来訪者の実態を把握し、観光施策立案の基礎データとして活用するため、観光動態・消費動向調査を実施します。また、横浜の観光MICEを官民一体で推進していくため、概ね10年後に目指す観光MICEの姿や方向性を示す「横浜市観光MICE戦略」を策定します。さらに、戦略に基づく観光・MICE施策を確実に推進するために、地域の関係者が主体的に参画する観光推進体制の構築を進めます。

(10) MICE誘致・開催支援事業 **810,888千円** (前年度 559,324千円)

依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、安全・安心にMICEが開催できるよう主催者を支援するとともに、参加者の来訪を促し、消費活動の喚起につながる取組を推進します。併せて、コロナ禍からの回復を見据えて国際会議等の誘致を進め、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

また、横浜の歴史と魅力を生かした大規模集客イベントに対し、開催に向けて支援することで、街の賑わいを創出します。

(11) 減債基金積立金 **58,016千円** (前年度 54,708千円)

㈱横浜国際平和会議場貸付金について、利子を減債基金に積み立てます。

(12) 20街区MICE施設整備運営事業 **3,297,903千円** (前年度 3,298,103千円)

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。アフターコロナを見据えた新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、地域経済の発展・賑わい創出へ貢献します。

【終了事業】

(観光施設維持管理事業(マリントワー改修))

(前年度 1,176,433千円)

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を設定。

（４年度設定額：2,340,000千円（３年度設定額：2,580,000千円））

（設定期間：令和４年４月～９年３月まで）

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設 立>

昭和62年６月３日

<基 本 金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：令和２年度決算

・売上高 4,904,095千円 ・売上原価 6,152,874千円

・営業利益 ▲2,069,812千円 ・当期純利益 ▲2,329,482千円

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

３年度における売上や会場の予約状況は、アフターコロナを見据え回復基調にある。引き続き、売上の確保及び経費削減に取り組み、９年３月までに対象債務を返済する見通しである。



YOKOHAMA
OTOMATSURI
横浜音祭り